

Level3 スコア評価の分析についての説明

PCC マーカーを使って Level 3 プログラムを提供する Coaching Plus One 独自の評価レポートについて説明します。

評価の対象は各自のセッション・レコードです。猪俣MCC と青木MCC が開発した評価基準に従って両MCC によって独立に評価されます。第二期からの評価スコアは以下の5段階です。

5：In MCCの世界

4：MCC合格レベル

3：PCC中級～上級レベル

2：PCC初級レベル

1：ACCレベル、もしくはセッション中に該当するアプローチがみられなかった場合

第一期では以下の3段階で評価されていました。

3: MCC合格レベル

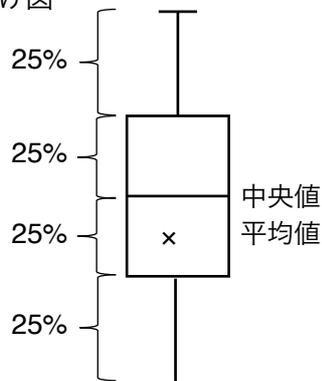
2: PCC中級レベル

1: PCC初級レベル

PCC マーカーのそれぞれの項目について猪俣MCC と青木MCC によって独立に評価されたスコアの平均値が評価結果としてレポートされています。

受講者全体についての分析は箱ひげ図 (Box plot) を使って行なっていますのでまず箱ひげ図について簡単に説明します。

- 箱ひげ図

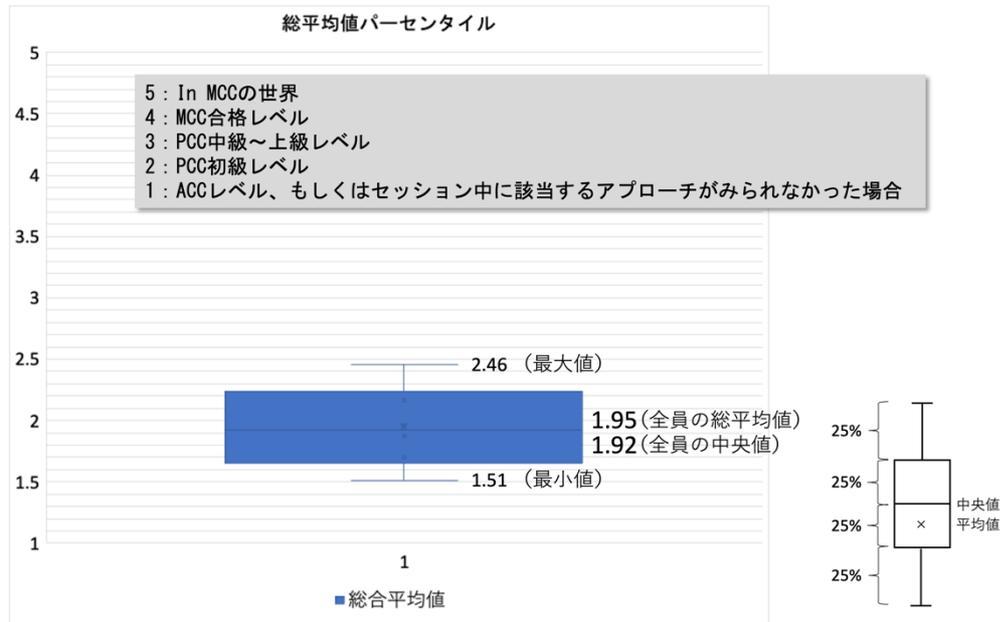


こちらが箱ひげ図です。箱ひげ図は各受講者の評価結果スコアをデータとして入力しそのスコアの分布を四角（箱）と直線（ひげ）によって表しています。

箱ひげ図は外れ値という特異なデータを除いて最大値から最小値まで範囲を4分割して表示しています。全体の1/4個（25%）の低スコアの範囲を下部直線、全体の中央値から低スコアの上限までの全体の1/4個（25%）の範囲を四角、中央値から高スコアの範囲全体の1/4個（25%）の範囲を四角、そして最高スコアから全体の1/4個（25%）の範囲を直線で表しています。

- 参加者全員の総平均値分布

参加者全員の総平均値分布



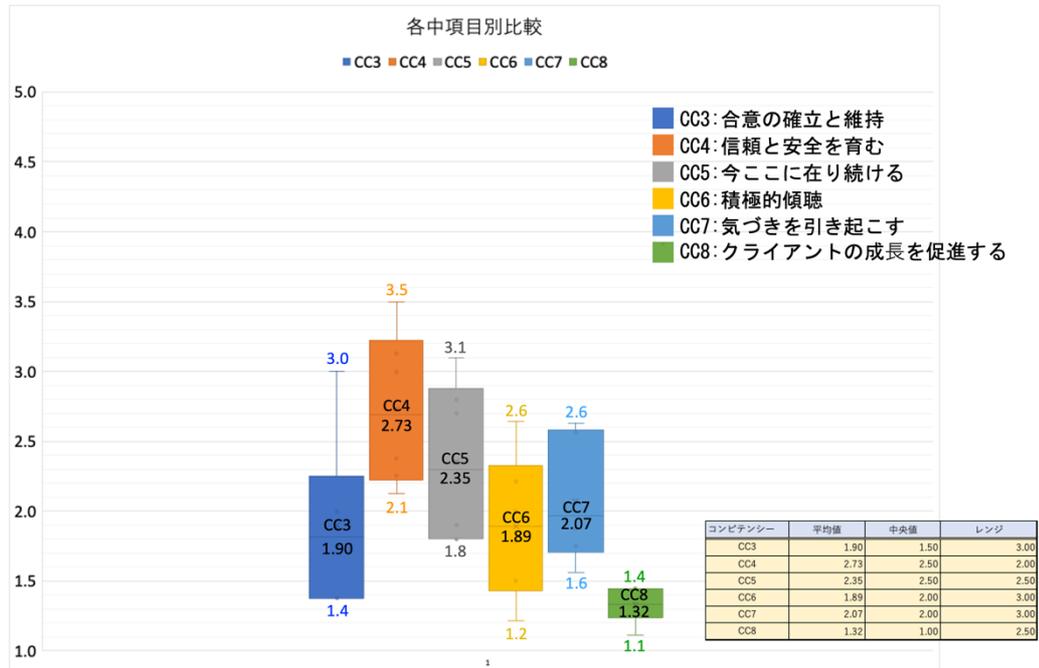
こちらが第二期第1回目の評価参加者全員の分布を示した箱ひげ図です。

この図を使って評価参加者全員による全体スコアの位置と分布を俯瞰することができます。

全員の中央値は1.95 これが全体の位置です。つまり、評価参加者全員の位置は粗々PCC初級レベルであると読み取れます。最大値は2.46 なのでPCC初級レベルとPCC中級～上級レベルの真ん中あたりです。最小値は1.51 ですのでACCレベルとPCC初級レベルの真ん中あたりです。評価参加者は自分のスコアの総合平均値の位置がこの箱ひげ図のどのあたりにあるのかをみることにより自分のレベルの位置付けがわかります。

- コンピテンシー中項目別パーセンタイル

コンピテンシー中項目別パーセンタイル



こちらはコアコンピテンシー3、4、5、6、7、8の各グループ別に箱ひげ図を使ってそれぞれのグループの位置と分布を表示したものです。

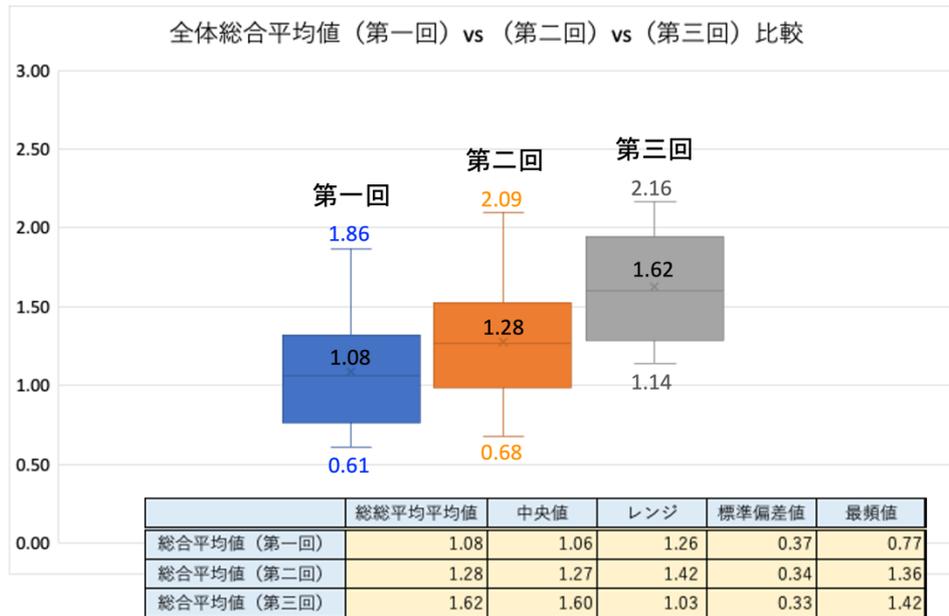
- CC3: 合意の確立と維持
- CC4: 信頼と安全を育む
- CC5: 今ここに在り続ける
- CC6: 積極的傾聴
- CC7: 気づきを引き起こす
- CC8: クライアントの成長を促進する

こちら方分かることは、全体的に「CC4 信頼と安全を育むは」PCC 中級レベルくらいにできているが、「CC8 クライアントの成長を推進する」は全員まとまってPCC初級レベルに達していないことが見て取れます。

「CC3 合意の確率と維持」も全体的には開発領域です。

- 第一回 vs.第二回vs.第三回目の全体総平均値比較（第一期）

第一回 vs. 第二回 vs. 第三回目の全体総平均値比較



こちらは、Level 3 プログラムの第一期の成長度合いを表しています。

ただし、第一期ではスコアの基準が第二期とは異なります。

3: MCC合格レベル

2: PCC中級レベル

1: PCC初級レベル

同プログラムでは3回セッション・レコードを使った評価が実施されますが、こちらの箱ひげ図は、第一回目、第二回目、第三回目の評価結果の推移をしましています。

つまり Coaching Plus One の Level3プログラムを受講するに従ってクラス全体のレベルが高くなっていったという事をこの三つの箱ひげ図が示しています。全体の総合平均値の比較で見ると、第一回目の評価結果は平均値で1.08 つまりPCC 初級レベルでしたが二回目、三回目では 1.28、1.68 と PCC 中級レベルへと成長していることが見て取れます。